

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-6	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
117明治	古B345 古B346	新 精選 古典B古文編・漢文編		

## 1. 編修の基本方針

「国語総合」の「国語に親しみ、豊かな心と知性をもつ創造的人間を育てる」という基本方針を受けつぎ、高等学校段階の国語の能力を確実に身につけるため、新たに下記の方針を策定した。また、基本的に全ての教材の内容を通して教育基本法第2条各号に示す目標を達成するよう教材を選択し、配列した。その中で特徴的な教材については「2. 対照表」に示した。

a 古典（古文・漢文）を読む能力を高め、それを理解する能力を養う。

b 現代に受け継がれてきた古典作品を鑑賞して、その思想や感性を理解し、自分自身の思考を深め、豊かな感受性を培う。

c 古典に対する興味を深め、自国の伝統と文化を守り育て、大切にすることを育む。

d 言語活動の基礎である文字や言葉の源となった、文語、仮名、漢文、漢字などについて理解を深め、文字や言葉の本質や価値を認識する。

## 2. 対照表

(例)

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求め、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	真理を求める態度を養う、という観点から、「フルヘツヘンド」を掲げた。先人の、翻訳作業を通じて真理を追求する姿勢から、自らの学問に対する態度を養うことができると考えたため。	古179頁1行目～181頁8行目
第2号 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活の関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	個人の能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養い、職業との関連を重視する、という観点から、「六歳の夏の頃」を掲げた。幼い頃から刻苦勉勵し、社会に益する人物となるという話から、学ぶことが将来の職業へつながると意識できると考えたため。	古176頁1行目～178頁2行目

<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の形成に寄与し、その発展に寄与すること。</p>	<p>正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の形成に寄与し、その発展に寄与すること。この観点から、「廉頗・藺相如」を掲げた。人を敬愛し、社会の発展を大切にする大切さを学べたため。</p>	<p>漢 102 頁 1 行目 ～109 頁 3 行目</p>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。この観点から、「春はあけぼの」を掲げた。美しい四季の移り変わりがあつたこと、自ら自然を大切にすることを考えるため。</p>	<p>古 84 頁 1 行目～ 85 頁 6 行目</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うこと。この観点から、古典に「四季の美意識」を掲げた。いにしえから現代にまで継承されてきた日よき文化の心を高め、郷土を愛する態度を養うことができたため。</p>	<p>古 80 頁 1 行目～ 81 頁 14 行目</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
- ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第〇号)
  - ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：〇ページ)を記入する。
  - ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
- 5 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 6 別紙様式第4-1号の分量は5ページ以内とする。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-6	高等学校	国語	古典B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
117明治	古B345 古B346	新 精選 古典B古文編・漢文編		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

a 単元の構成  
単元の構成は、原則として領域別、ジャンル別とした。学習が重点的、かつ効果的に行われることを期待したからである。

b 単元の配列  
単元の配列に当たっては、「古文」「漢文」の各分野の配当時数並びに、バランスを考慮し、生徒の興味喚起と学習到達度を考慮して、発展的、系統的に学習できるように配列した。

c 教材の選択  
ア 教材は、編修方針に基づいて選定した。なお、教材のうち、筆者名のないものは、編集委員が書き下ろしたものである。  
イ 高等学校の古典として、「国語総合」で最も基本的なものを幾つか学習していることを考慮し、重複するものを避け、学習が発展的、系統的に行われるよう工夫した。変化のある多様な内容に触れられるように、文種・形態・時代や長短・難易に配慮し、バランスよく教材を選定した。  
ウ 古典としての評価が高く、かつ生徒の学習意欲を喚起するに足る基本的で親しみやすい教材を精選した。  
エ 古典教材の学習を容易にし興味を持たせるため、読みやすくするよう表記を工夫し、言葉の上での抵抗が少なくなるように図った。また、適宜、注釈を施したり、漢文においては、訓点を付け、特に、文語文法との有機的な関連にも配慮した。  
オ 古典が現代まで読み継がれている意味について考える際の一助となるよう、古典についての評論文も掲げた。  
カ 我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める一助となるよう、日本人が作った漢詩文も取り上げた。

d 注  
ア 注 固有名詞や辞書では検索しにくい語句や難語句について、番号を付し、その解説をした。解説は文脈に即して行い、読解上の抵抗を少なくするようにした。  
イ 注意点 ●を付けて、本文読解上の注意点を質問の形で示した。  
ウ 注意する語句 \*を付けて示した。古文では、重要語句を中心とした。漢文では基本句形を掲げた。

e 研究・言葉の学習  
教材ごとに「研究」を設け、内容理解の問題を中心とし、学習指導が有効かつ適切に行われるように配慮した。古文編の「言葉の学習」では、主に文法・語法に関わる問題を掲げ、読解に即して文語文法の指導がしやすいように考慮した。漢文編では、主に語法・語句・漢字に関わる問題を掲げた。  
また、「言葉の学習」には、古文編漢文編共に、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷について分かったことを報告させるなどの言語活動も盛り込んだ。

f 付録  
古文編では、文法要覧・日本古典文学史年表・参考図録〔四季・月（陰暦）の名称、干支表、方位、時刻、陰暦月齢表〕・重要古語の解説および索引〕を、学習に資するものとして示した。  
漢文編では、中国文化史年表・漢文の基本句形を、学習に資するものとして示した。

g 資料  
古文編では、旧国名・都道府県名対照図・京都付近図・古典参考図録〔平安時代の住居、調度、女性の装束・男性の装束・武装、平安京条坊図・大内裏図・内裏図〕を、学習に資するものとして示した。  
漢文編では、中国新旧参考地図を、学習に資するものとして示した。

## 2. 対照表

図書の内容	学習指導要領の内容	内容の取扱い	箇所	配当時数	
古文編					
見返し	平安京条坊図・大内裏・内裏 京都付近図	(1)	見返し1~2		
		(2)			
	旧国名・都道府県名対照図	(1)	見返し3		
		(2)			
前編					
1 説話	博雅の三位と鬼の笛（十訓抄）	(1)	(3) (4) ア	P. 8~9	1
		(2)			
	大江山（十訓抄）	(1)	(3) (4) ア	P. 10~11	1
		(2)			
	袴垂、保昌に会ふこと（宇治拾遺物語）	(1)	(3) (4) ア	P. 12~13	1
		(2)	ウ		
2 物語（1）	竹取物語 帝の求婚	(1)	(3) (4) ア	P. 14~16	1
		(2)			
	かぐや姫の昇天	(1)	(3) (4) ア	P. 16~19	1
		(2)			
3 随筆（1）	徒然草 世に語り伝ふること	(1)	(3) (4) ア	P. 20~21	0.5
		(2)	ウ		
	これも仁和寺の法師	(1)	(3) (4) ア	P. 22~23	0.5
		(2)			
	雪のおもしろ降りたりし朝	(1)	(3) (4) ア	P. 24	0.5
		(2)			
	あだし野の露消ゆるときなく	(1)	(3) (4) ア	P. 25~26	0.5
		(2)	ウ		
	折節の移り変はるこそ	(1)	(3) (4) ア	P. 26~29	1
		(2)	ウ		

	世に従はん人は	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 30~31	1
		(2)			
	方丈記 ゆく河の流れ	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 32~33	0.5
		(2) ウ			
	養和の飢饉	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 34~36	1
	(2)				
	日野山の閑居	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 37~40	0.5
		(2) ウ			
	古文の窓①無常の理	(1) オ		P. 41	
		(2) ウ			
4 歌物語	伊勢物語 初冠	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 42~43	1
		(2) ウ			
	狩りの使ひ	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 43~45	1
		(2) ウ			
	小野の雪	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 46~47	1
(2) ウ					
つひに行く道	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 48	1	
	(2) ウ				
	大和物語 姨捨山の月	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 49~51	1
		(2)			
5 和歌・歌謡 俳諧・俳論	和歌	(1) ア ウ エ	(2) (3) (4) ア	P. 52~60	2
		(2) エ			
	古今和歌集仮名序	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 61	0.5
		(2)			
	歌謡	(1) ア ウ エ	(2)	P. 62~63	1
(2)					
俳諧	(1) ア ウ エ	(3) (4) ア	P. 64~67	2	
	(2) ウ				
俳論	(1) ア イ ウ エ		P. 68~71	0.5	
	(2)				
6 物語 (2)	源氏物語 光源氏誕生	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 72~74	2
		(2)			
	小柴垣のもと	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 75~79	2
	(2) ウ				
	古典に関する評論文 四季の美意識	(1) ウ エ オ	(3) (4) ア (4) イ	P. 80~83	1
		(2)			
7 随筆 (2)	枕草子 春はあけぼの	(1) ア イ ウ エ	(2) (4) ア	P. 84~85	1
		(2)			
	木の花は	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 86~88	1
		(2) ウ			
	中納言参り給ひて	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 88~89	1
		(2)			
雪のいと高う降りたるを	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 89~90	1	
	(2) ウ				
九月ばかり	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 91~92	1	
	(2)				
	古文の窓②平安女流文学と後宮の女房	(1) オ	(4) ア (4) イ	P. 93	
		(2) エ			
8 軍記物語	平家物語 忠度の都落ち	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 94~97	2
		(2) ウ			
	先帝身投げ	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 98~101	2
		(2)			
9 日記	更級日記 門出	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 102~103	1
		(2) ウ			
	源氏物語を読む	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 104~106	1
	(2) ウ				
	建礼門院右京大夫集 今や夢昔や夢	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 107~109	1
		(2)			
10 歴史物語	大鏡 雲林院の菩提講	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 110~112	1
		(2)			
	花山天皇の退位	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 113~115	1
		(2) ウ			
読み比べ教材 栄花物語一花山天皇の退位一	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 116~118	1	
	(2) イ				
	南院の鏡射	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 119~120	1
		(2)			
後編					
1 随筆 (1)	枕草子 うつくしきもの	(1) ア イ ウ	(4) ア	P. 122~123	1
		(2) ウ			
	かたはらいたきもの	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 124	1
(2)					
	二月つごもり頃に	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 125~126	1
		(2)			

	宮に初めて参りたる頃	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 127~129	1
		(2)				
	御前にて人々とも	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 129~131	1
		(2)	ウ			
2 日記	蜻蛉日記 町の小路の女	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 132~134	1
		(2)				
	泔杯の水	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 134~136	1
		(2)	ウ			
	和泉式部日記 夢よりもはかなき世の中を	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 137~139	1
		(2)	ウ			
	影こそ出づれ	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 139~141	1
(2)						
紫式部日記 若宮誕生	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 142~143	1	
	(2)					
和泉式部・清少納言	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 144~145	1	
	(2)	ウ				
3 評論 (1)	香冠折句の歌 (俊頼髓脳)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 146~147	1
		(2)				
	おもて歌のこと (無名抄)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 148~149	1
		(2)	ウ			
	心と詞 (毎月抄)	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 150~152	1
(2)						
不易流行 (三冊子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 153~154	1	
	(2)	ウ				
古文の窓③ 詩歌の歴史	(1)		エ オ	P. 155		
	(2)					
4 物語	源氏物語 車争ひ	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 156~159	1
		(2)				
	心づくしの秋風	(1)	ア イ ウ エ オ	(2) (3) (4) ア	P. 160~163	2
		(2)				
	野分の垣間見	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 164~166	1
		(2)				
三日がほど	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 167~169	2	
	(2)					
紫の上の死	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 170~172	1	
	(2)	ウ				
堤中納言物語 虫めづる姫君	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 173~175	1	
	(2)	ア				
5 随筆 (2)	六歳の夏の頃 (折たく柴の記)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 176~178	2
		(2)				
フルヘツヘンド (蘭学事始)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 179~181	1	
	(2)					
6 歴史物語	大鏡 道真の左遷	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 182~185	1
		(2)				
	三船の才	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 186~187	1
		(2)	エ			
	肝試し	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 187~190	1
(2)						
鶯宿梅	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 191~192	1	
	(2)	ウ				
増鏡 新島守	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 193~195	1	
	(2)					
7 評論 (2)	紫式部 (無名草子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 196~197	1
		(2)				
	もののあはれの論 (源氏物語玉の小櫛)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 198~199	1
		(2)				
	師の説になづまざること (玉勝間)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 200~201	1
		(2)	ウ			
秘する花を知ること (風姿花伝)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 202~203	1	
	(2)	ウ				
虚実皮膜の間 (難波みやげ)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 203~204	1	
	(2)					
古文の窓④ 古典芸能への招待	(1)		オ (4) ア	P. 205		
	(2)					
8 伝承	古事記 倭建命の望郷の歌	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 206~209	2
9 近世小説	世間胸算用 鼠の文使ひ	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 210~215	2
		(2)	ウ			
	雨月物語 浅茅が宿	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 216~222	2
(2)		ウ				
古文の窓⑤ ベストセラー作家の誕生	(1)		オ	P. 223		
	(2)		エ			
	文法要覧	(1)	ア	(3)	P. 224~233	
		(2)				

付録	日本古典文学史年表	(1)			P. 234~239	
		(2)				
	参考図録	(1)			P. 240	
		(2)				
	重要古語の解説および索引	(1)	ア	(3)	P. 241~248	
		(2)				
口絵	住居	(1)			口絵1	
		(2)				
見返し	調度・女性の装束・男性の装束・武装	(1)			見返し4~6	
		(2)				
漢文編						
見返し(図版「孟母断機図」「夢蝶」「易水離別図」)		(1)			見返し1~3	
三国時代の英雄たち、写真 廬山の瀑布)		(2)				
前編						
1 故事・逸話	漱石枕流(世説新語)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 6	0.5
		(2)				
	推敲(唐詩紀事)	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 7	1
		(2)				
	塞翁馬(淮南子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 8~9	1
		(2)				
	震畏四知(蒙求)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 9~10	0.5
	(2)	ア ウ				
杞憂(列子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 11~12	1	
	(2)					
孟母断機(列女伝)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 12~13	1	
	(2)					
2 史話・史伝(1)	十八史略	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 14~15	1
	管鮑之交	(2)	ウ			
	背水之陣	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 16~18	1
	(2)					
赤壁之戦	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 18~21	2	
	(2)					
3 詩	竹里館 涼州詞 望廬山瀑布 登岳陽樓 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁 春夜 遊山西	(1)	ア ウ エ	(2) (3) (4) ア	P. 22~28	4
		(2)	イ ウ			
	漢文の窓①漢詩の流れ	(1)		オ (4) ア	P. 29	
	(2)					
4 史話・史伝(2)	史記	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 30~37	3
	鴻門之会	(2)	ウ			
	四面楚歌	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 38~42	2
		(2)	ウ			
	参考 題烏江亭 杜牧 烏江 李清照	(1)	ウ	(3) (4) ア	P. 43	1
	(2)	イ				
漢文の窓②司馬遷と『史記』	(1)		オ (3) (4) ア	P. 44~45		
	(2)	ウ				
5 寓話	五十歩百歩(孟子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 46~47	1
		(2)	ウ			
	夢為蝴蝶(莊子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 48	0.5
		(2)				
	曳尾於塗中(莊子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 49	0.5
		(2)				
	且買履(韓非子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 50	0.5
		(2)	ウ			
慈恵亡国(韓非子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 51~52	0.5	
	(2)					
不死之薬(戦国策)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 52~53	1	
	(2)					
愚公移山(列子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 54~56	1	
	(2)	ウ				
6 文	漁父辞 屈原	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 57~59	1
		(2)	ウ			
	春夜宴桃李園序 李白	(1)	ア イ ウ エ オ	(2) (3) (4) ア	P. 60~61	1
		(2)	イ			
	師説 韓愈	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 62~65	1
	(2)					
醉翁亭記 欧陽脩	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 66~69	1	
	(2)	ウ				
漢文の窓③中国の散文	(1)	ア ウ エ オ		P. 70		
	(2)					
漢文編 後編						
1 詩	贈衛八処士 杜甫 桃夭 飲酒 勅勒歌 子夜呉歌	(1)	ア ウ エ	(3) (4) ア	P. 72~77	2
		(2)				
	長恨歌 白居易	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 78~85	2
		(2)				

	漢文の窓④『白氏文集』と日本文学	(1) ア ウ オ		P. 86~87	
		(2) イ			
2 小説	死友 干宝	(1) ア イ ウ オ	(3) (4) ア	P. 88~90	2
		(2) イ			
	離魂記 陳玄祐	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 91~94	1
		(2) エ			
3 史話・史伝 (1)	枕中記 沈既濟	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 95~100	2
		(2) イ			
	漢文の窓⑤中国の小説	(1) オ		P. 101	
		(2) イ			
3 史話・史伝 (1)	史記 廉頗・藺相如 渑池之会 刎頸之交	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 102~107	2
		(2)			
	荆軻 風蕭蕭兮易水寒 図窮而匕首見	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 108~113	2
	(2) ウ				
4 思想	韓信 漂母進食 俛出袴下	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 114~117	2
		(2) ウ			
	孟子	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 118~119	0.5
	(2) ウ エ				
4 思想	荀子	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 120~121	0.5
		(2)			
	老子	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 122~123	1
		(2) ウ			
	莊子	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 124~125	1
		(2)			
	墨子	(1) ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 126~127	1
		(2)			
5 史話・史伝 (2)	韓非子	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 128~129	0.5
		(2)			
	孫子	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 129~130	0.5
	(2)				
5 史話・史伝 (2)	漢文の窓⑥諸子百家	(1) オ		P. 131	
		(2)			
5 史話・史伝 (2)	蘇武持漢節 (資治通鑑)	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 132~135	2
		(2) ウ			
6 日本漢詩文	三顧之礼 (三国志)	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 136~141	2
		(2) ウ			
	読家書 富士山 無題	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 142~143	1
		(2) ウ			
6 日本漢詩文	惜陰	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 144	1
		(2) ウ			
	能登殿最期	(1) ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 145~147	1
		(2)			
6 日本漢詩文	漢文の窓⑦近代日本と漢文	(1) オ	(4) イ	P. 148~149	
		(2)			
付録	中国文化史年表	(1)		P. 150~153	
		(2)			
付録	漢文の基本句形	(1) ア	(3)	P. 154~160	
		(2)			
見返し	中国新旧参考地図	(1)		見返し4~5	
		(2)			
				計	140

- (備考)
- ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
  - 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
  - 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ(例:○~○ページ)を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
  - 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
  - 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
  - 別紙様式第4-2号の分量は5ページ以内とする。